

## 【仏壇の安置と荘厳】

### 〔仏壇の安置〕

家族の集まりやすい、家庭の中心となる場所に、そまつにならないようにご安置します。

部屋の都合で、お仏壇がどちら向きになっても、気にする必要はありません。方角や場所にこだわるのは、方角や場所に上下の位をみたり、優劣の差をつけるという考えから生まれてきたことでしよう。浄土真宗ではそのようなことにとらわれる必要はありません。家の設計をし、お仏壇をどこに取るかというのなら別として、都会では家や部屋が先にあり、家具とどう調整するかが問題なので、すから、方向など一切気にする必要はありません。

お仏壇を求めることや、納める日についても、さまざまなかをいう人がありますが、一切根拠のないことですので、気にする必要はありません。

こんな時こそ、浄土真宗のご門徒は、方角や日の吉凶によって、物忌みをする必要がないという「門徒物（忌むこと）知らず」という言葉を思い出してください。

お仏壇を新しくしたり、ご本尊を新しくお迎えになられたときには、「入仏式（入仏慶讃法要）」というお祝いの法要（おつとめ）をいたしますので、住職にご相談ください。浄土真宗では開眼供養やお正念（性根）入れなどとはいいません。

なお、お仏壇をお洗濯するときなど、一時的にご本尊をお移しするときには、ご遷仏法要をお勤めします。

別居している家族や、結婚して新しく所帯を持たれた方にも、高価なお仏壇ではなくても、ご本尊をぜひ安置いただけるよう、おすすめいたします。

〔ご本尊・脇掛けについて〕

お仏壇とは、ご本尊をご安置するところです。ご本尊がないなら、どれほど立派なものであっても、それは単なる箱に過ぎません。

ご本尊は、阿弥陀如来（木像・絵像）または南無阿弥陀仏の六字名号です。



九字名号  
(南無不可思議光如来)

六字名号  
(南無阿弥陀仏)

十字名号  
(歸命盡十方無碍光如来)



(左側)

(中央)

(右側)

蓮如上人(蓮師)

ご本尊(阿弥陀如来)

親鸞聖人(宗祖・祖師)

上の写真は右から

十字名号

六字名号(南無阿弥陀仏)

九字名号

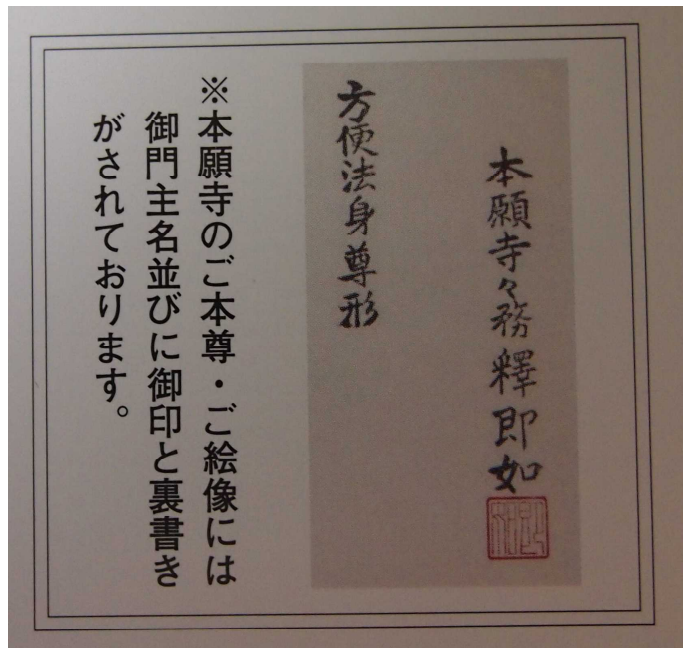
下の写真は右から

親鸞聖人

ご本尊(阿弥陀如来)

蓮如上人

一般家庭のお仏壇にお迎えするご本尊は、六字名号または絵像になります。木造は本山で扱っておりませんので仏壇屋さんの木像はおすすめできません。お仏壇を購入される場合まずご本尊は本願寺（ご本山）からお迎えしてお仏壇を購入しましょう。



※本願寺のご本尊・ご絵像には御門主名並びに御印と裏書きがされております。

すでに私に至り届いてあることを示してください。

脇掛けの親鸞聖人像・蓮如上人像は、浄土真宗の宗祖聖人と、そのお念仏のみ教えを私に伝えるために大変ご苦労くださった、本願寺中興の祖であります。

また、九字名号や十字名号は、六字名号のはたらきを具体的に表してください。

本願寺のご本尊にはご門主名と御印と裏書きがされております。

せっかく高価な買い物をするのに肝心のご本尊が本願寺からお迎えしないというのはエンジンの付いていない車を買うみたいなのです。

一般的に、「お仏壇にお参りする」といいますが、それは「ご本尊にお参りする」ということです。

絵像や木像は、私をおすくください。阿弥陀如来さまの慈悲の心を、少しでも私にわかるように、形に表してください。お名号は、阿弥陀如来さまがことばの如来となつて、

※ご本尊を本山からお迎えするには、冥加金の進納が必要です。住職にお問い合わせてください。

ています。

**ご本尊・脇掛けは、必ずご本山（本願寺）よりお受け下さい。**  
詳しいことは住職にご相談ください。

お仏壇の付属品としてご本尊が付いてくるものではありません。

なお、お仏壇の中には、お骨・写真・位牌・水・お茶などは置きません。まして他宗のお札やお守り等をおかないことは言うまでもありません。

ご命日や、ご法事に過去帳や法名軸をお出ししても、必ずご本尊より壇を下にし、正面を外しておいたり、おかけしてください。

---







